
タイガー タイガー 困っタイガー

かるびーえーる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイガー タイガー 困ったタイガー

【Nコード】

N7280D

【作者名】

かるびーえーる

【あらすじ】

タイガー道場でのお話です……

(前書き)

ワケのわからないお話になってしまいました・・・

「みんな　タイガー道場が始まるよ」

「やつほ　始まるぜ」

うきうき

「・・・おい？こらこら？弟子一号？十二師匠より自立とうとしてんだ？このロリロリブルマっ娘があ」

ぐりぐり

「うえくん、幼女虐待で豚箱に入れてお前の人生めちやくちやにしてやるこのメスブタがあ（泣）」

「（・・・泣きながらえげつない事言うわね・・・この子（汗）」

「さして・・・そろそろシロウがセイバールトでドジってやってくる頃ね・・・」

「えへへへへ　お兄ちゃんどんな死に方するのかな？私のバーサーカーに踏み潰されるのかな？それとも私のモノになって終わるのかな？楽しみ」

「……………あ、悪魔ね(汗)」

ガララ……

「おっ、さっそくシロウがこのことやって来たみたいよ？弟子一
号」

「いらっしゃい シロー…………？」

「フフフ…………こんな場所にこんな空間があつたとはな……
・これは驚いた」

「げえ！！！！マーボー神父！？なぜあんたがここに！？」

「ちよつ…………シローはどうしたのよ！！！！このエセ神父！！
！」

「いやなに仕様だ」

「い…………意味わかないわよ！！！！と…………とっとなと出て行け！
！」

「ふむ…………なるほど。確かにここは良い空間だな、よし』やすら
ぎのカントリー言峰『Sプレイス』と名付けるとしよう」

「ちよつ…………！ナニ居ついてんの！？この男！？しかも勝手にワ
ケわかんない不快な名前をつけてんじゃあないわよ！！！！ココでは
私、藤村大河が主役よ！！！！あんたみたいな陰気男はさっさと出て
行きなさい！！！！」

「ふむ・・・では『やすらぎのカントウリイ言峰あ〜んどタイガー
Sプウレイス』と名付けるとしよう」

「いやよ!!!そんな運命共同体みたいな名前!!!しかもなんか
ハイカラっぽい名前になつたし!!!」

ガララ・・・

「あつ、ししよー!!!また、誰か来たみたいですよ!!!」

「今度こそシロウね!!!いらっしや〜い シロウ〜」

「・・・なんじゃ、藤村の娘か」

「ぎゃー!!!間桐の虫ジジイ出たー!!!なんで!?!」

「ししよ〜!!!どうなってるんですか〜???また不吉な奴が出
てきましたよ〜!!!」

「わ・・・わかんないわよ!私だつて!と、とにかく!あんた達!
早くこっから出て行きなさいよ!」

「おい、小娘。ここにはマーボー豆腐はないのか?」

「おい、藤村の娘。舌がしびれるくらいのおついほうじ茶はないの
か」

「ないわよ!!!そんなの!!!!サ店じゃないのよ!?!?!ここは!!!」

ガララ・・・

「し・・・ししょく・・・また誰か来たみたいですよ・・・」

「も・・・もう、カメラでもモスラでもなんでも来なさいよ・・・
あたしやあ、疲れたわ・・・」

「はっ!なんだい、この薄汚い道場は。僕みたいな高潔な人間には
考えられない世界だね」

「・・・・・・・・・・なんだ、ワカメか」

「・・・・・・・・・・おいしいワカメか」

「な・・・なんだ!!!その反応は!?!?ち・・・畜生!?!?!どいつ
もこいつも僕を馬鹿にしやがって!!!
ほ・・・僕は!?!?!間桐の人間なんだぞ?もつと敬え!?!?!コノヤ
ロウ!?!?!(泣)」

「あんたってホラー映画で最初の方でうるさく騒いでいて最終的に
すぐに殺されるタイプよね?」

「う……うるさいっ！！！今、顔見て言っただろ！？お前っ！！」

ガラっ……

「あれ？し……ししょくまた来たみたいですよ！！！」

「ん……あー さくらちゃ……って黒やーん！！！！！！（泣）」

「ウフフ……こ・ん・ば・ん・わ 藤村先生 イリヤちゃん
そして……兄さん」

「ひいひいひいひい！！！！！！！！！！も、もう来やが
った！！！！！！！！」

「……おい、ワカメ……あなた桜ちゃんになにかしたの？
な……なんか桜ちゃんものすごく怒ってるみたいだけど……
？」

「あ……ああ、あいつの冷蔵庫に取って置いたお気に入りプリ
ンを僕が食べたんだよ！いいだろ！？別にそのくらい！！！」

「そりゃあ、あんたが全面的に悪い（汗）」

「だ……だいたい！！桜が悪いんだぞ！？ぼ……僕はいつも
『満月堂』のプリンを買って来いと言ってるのにお前はなぜか『新
田食品』のプリン買ってくるから……！！！！ぼ……僕が処理し
てやってんだ！！！！ふ……ふん！あ、ありがたく思いなよ」

「ウフフフフフ……言いたい事はそれだけですか？に・い・さん・」

にっにり

てくてく……

「や……やめろお……ぼ、僕に近づくなあ……ひっ！そ……それ以上く……来るなああああ！

！……！きゃ……きゃあああああ……！……！い、いやあああああ……！……！」

めきゅどきゅにゅきゅもみゅめにゅ……

「お……おそろすいわ……（汗）」

「……はっ」

「……どつなされたのですか？シロウ」

「……いや、変な夢を見たんだ……悪かつ

たな、食事中に「

「……………いえ、ならいいんですが……………」

「……………ああ、とりあえず冷めないうちにメシ食おうぜ。セイバー」

「？」

……………なんだっただ、一体（汗）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7280d/>

タイガー タイガー 困っタイガー

2011年5月6日08時32分発行